音　楽　科

創造性を基盤とする音楽の学びを追求する生徒の育成

三村　悠美子

1　主題設定の理由

(1) 共通研究主題との関連

今回の学習指導要領の改訂にあたり，中央教育審議会答申において「予測困難な社会の変化に主体的に関わり，感性を豊かに働かせながら，どのような未来を創っていくのか，どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え，自らの可能性を発揮し，よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要である」と示された。これを踏まえ，平成29年３月公示の新学習指導要領において，音楽科の目標が「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して，音楽的な見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の音や音楽，音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成すること」とされた。

今回の共通研究主題にある「学びの意義」，「自ら学び続ける生徒」について，音楽科では以下のように考えている。「音楽を学ぶ意義」は，「社会の一員としての私たち全員が，明るく豊かで充実した生活を送るため」だと考える。生徒が音楽を人々の営みと共に生まれ発展し継承されてきた文化として捉え，我が国の音楽に愛着をもったり我が国及び世界の様々な音楽文化を尊重したりできるようになることは，自己及び日本人としてのアイデンティティを確立することや，自分とは異なる文化的・歴史的背景をもつ音楽を大切にし，多様性を理解することにつながる。そして，音や音楽によって人は自己の心情をどのように表現してきたか，人と人とがどのように感情を伝え合い共有し合ってきたかなどについて実感することは，生徒が生活や社会の中の音や音楽，音楽文化と豊かに関わろうとすることにつながる。また，「自ら学び続ける生徒」とは，「音楽の学びを自ら／時に他者と協働しながら追求できる生徒」と考える。具体的には，創作，合唱等の作品を単に完成させることだけを求める／それだけに満足するのではなく，よりよいものを求め，他者の意見を積極的に仰いだり助言を取り入れたりしながら取り組む，自分の思いや意図がより相手に伝わる音楽表現にするために粘り強く試行錯誤する，自分の学びを客観的かつ俯瞰的に捉えることができる生徒である。生徒がこのような学びを積み重ねることは，自ら学び続ける姿の具体化につながり，中学校音楽科の目指す資質・能力の育成にもつながる。

さらに，現在，学校教育において求められている「豊かな創造性を備えた持続可能な社会の創り手を育てる」という点でも音楽科として担っている役割は大きい。学校を卒業し，学校教育から離れた際，日常の音や音楽に反応できるアンテナを持った感性の豊かな人を育てる，音楽と生活や社会とのつながりについて考えることから社会を見つめる，音楽の多様性や固有性等から持続可能な社会づくりにつながる視点について学ぶ，これらは全て「豊かな創造性を備えた持続可能な社会の創り手」を育てることにつながる。

(2) これまでの研究との関連

(1) **共通研究主題との関連**でも述べたとおり，平成29年３月公示の学習指導要領第２章第５節音楽では，音楽科の目標として「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して，音楽的な見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の音や音楽，音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成すること」が目指されている。また，この資質・能力の育成に向けて，「生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際，音楽的な見方・考え方を働かせ，他者と協働しながら，音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや美しさなどを見いだしたりするなど，思考，判断し，表現する一連の過程を大切にした学習の充実を

図ること。」が求められている。

音楽科にとって，この「主体的・対話的で深い学び」を実現する際の鍵となるのは，「音や音楽を，音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉えること」であり，「音や音楽をより高いレベルで捉えられるようになること」が，より質の高い深い学びにつながると考える。なお，本校音楽科では「音や音楽をより高いレベルで捉えられるようになる」には次の６つのプロセスがあると考えている（**図１**）。

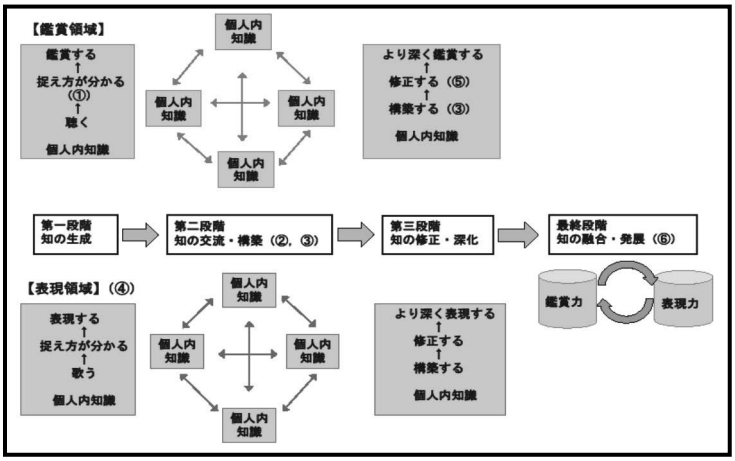

図１　音や音楽をより高いレベルで捉えられるようになるための６つのプロセス

① どのように音楽を捉えればよいか，捉え方が分かる。
② 捉え方が一通りではないことを，理解する。
③ 知識を相互に関連付けたり，より精緻な情報を獲得したり精査したりすること等を通して，捉える力そのものが構築される。
④ 鑑賞領域においてだけでなく表現領域でも，①～③の過程を通して，捉える力が育まれ培われることを体験する。
⑤ それぞれの領域で構築された力（＝捉える力）が修正され，さらにより深い捉え方（＝知識・技能）へと深化する。
⑥ 鑑賞領域，表現領域それぞれで培われた力（＝鑑賞力・表現力）が往還され，その結果，双方の力が創造的な音楽表現力の両輪となり，個々の知がクラスの知として融合・発展していく。

前回研究の第１次では，このプロセスの①～③を中心に鑑賞領域についての研究を行った。「中学校入学後の早い段階で聴き方（捉え方）の適切な指導」を行い，「同じ音楽を形づくっている要素に着目して数曲鑑賞」したり，「同一のテーマで作曲された楽曲を比較鑑賞」したり，「一つの楽曲を様々な視点から多面的・多角的に鑑賞」したりすることで，①～③の高まり，深まりを目指した。第２次では，**図１**の④～⑥を中心に表現領域，特に創作分野の研究を行った。「小学校での音楽づくり」経験についての事前調査を行うことで生徒の実態把握した後，生徒が創作しやすい「つくる際の約束事」について吟味したり，「楽譜」への抵抗感を軽減する工夫について考えたり，創作の授業までにどのような活動のステップがあれば効果的かを考えたりして，題材を構成し，実践した。調査問題の分析結果から，前回研究の取り組みは，生徒の鑑賞力，表現力を伸ばすことにつながり，また，生徒がそれらの力を往還させて音楽表現の創意工夫を生み出す力（＝創造性）を伸ばすことにつながっていることが確認された。また，多種多様な「作曲家の匠の技」に触れさせたことにより，生徒は音楽の多様性に気付けたり，創意工夫そのものについて考えたりすることができていた。さらに，その作曲家その作曲家独自のオリジナリティについて考えたり，その「凄さ（プロの凄さ）」について考えたりするなど，「創造性」の具体にも目を向けることができていた（詳細は，本校「研究紀要第 55 号」参照）。このように，音や音楽をより高い次元で捉えるためには，音楽に対して動的かつ創造的に関わり合うことが必要であり，創造性の追求

こそが音楽教育の基盤であると言える。

(3) 生徒の現状と課題

前回研究の対象の中心としてきた第３学年の生徒は，創造性に対するアンテナが十分に育ち，自身の音楽表現の創意工夫にもその学びが生かされている。しかし，本校生徒全体の創造性を高めていくことにはまだ課題がある。また，生徒が「創造性を基盤とした音楽の学び」を追求できるようにするためには，生み出すこと（創造すること）の面白さ，難しさ，多様性，固有性など，その価値に気付くことができるような学習活動とはどのようなものなのか，鑑賞領域，表現領域それぞれでどのような学習活動を行えば，生徒がそれぞれの領域で培った力を往還させることができるのか等，これまで以上に吟味していく必要がある。以上のことから，今回の研究主題を設定した。

２　音楽科で目指す生徒像

１　**主題設定の理由**を踏まえ，音楽科では目指す生徒像を以下のように設定している。

①　生み出すこと（創造すること）の面白さ，難しさ，多様性，固有性など，その価値に気付ける生徒

②　①を基盤として，音楽の学びを自ら／時に他者と協働しながら追求する生徒

③　生活や社会における音楽の役割に気付き，生活や社会の中の音や音楽，音楽文化と豊かに関わろうとする生徒

このような生徒を育成するため，本研究では，①生徒がより効果的に創造性を働かせるために題材構成や学習活動をどのように設定するか，②生徒が学びを追求する場面をどのように設定するかの２点に重点を置いて進めることとした（これまでの研究のように領域を絞らないことで，音楽科の学びを広く捉え，領域と領域の横断，それぞれの領域で培われた力の往還が図れるよう意識したカリキュラムを設定する／学習内容や資質・能力の面で，他教科とのつながりを再度見直し，協働・連携の在り方を探る）。

３　研究計画

(1) 研究仮説

・「生徒がより効果的に創造性を働かせることができる題材構成，学習活動」を行うことで，音楽科で目指す生徒の育成ができるのではないか。

・「生徒が学びを追求する場面を意図的，効果的に設定した題材構成，学習活動」を行うことで，音楽科で目指す生徒の育成ができるのではないか。

(2) 研究計画

①　対象生徒　本校第１学年　176 名
　　第３学年　178 名

②　期間　令和２年４月～令和４年３月

③　検証方法　【本校版】目指す生徒像に基づく「学びに向かう力・人間性等」の評価項目の中・長期的評価項目（敬意系，貢献系，挑戦系）を基に音楽科版質問項目 27 問（**表１**）を作成。また，「音楽科が目指す生徒像」を基に自由記述問題３問（**表２**）を作成。これらにより，生徒の力がどのように伸びたか検証する。なお，質問項目 27 問については，各系につき９問ずつでそれぞれ５段階評価，自由記述問題については，音楽科で作成した５段階のルーブリックを基に生徒の記述内容を数値化し，分析する。実施は，①令和２年 12 月と，②令和３年 12 月の２回実施とし，現　第１学年生徒の１回目の調査と２回目の調査での変容を分析する。なお，前回研究における学びを積み重ねてきた第３学年の生徒にも同様の調査を行い，分析の参考にする。

表１　音楽科版質問項目 27 問

①新しく出会った音や音楽に興味・関心をもち，意欲的に学習活動に取り組んでいる。
②新しく出会った音や音楽への捉え方と，これまでの自分の見方・考え方との相違に気づき，受け入れている。
③音や音楽に触れることが自分のものの見方や考え方を広げることにつながることを理解している。
④多様な音楽表現の創意工夫や，音楽の捉え方，感じ方があることを理解している。
⑤他者（主として友達）の多様な音楽表現の創意工夫や，音楽の捉え方，感じ方を尊重し，受け入れている。
⑥他者（主として友達）の多様な音楽表現の創意工夫や，音楽の捉え方，感じ方から，自分の工夫や捉え方，感じ方を深めている。
⑦苦手な音楽活動であっても，自らその活動の意義を見出し，自分のペースで前向きに取り組もうと努力している。
⑧他者（主として作曲家）の多様な音楽表現の創意工夫や，音楽の捉え方，感じ方を理解し，受け入れている。
⑨他者（主として作曲家）の多様な音楽表現の創意工夫や，音楽の捉え方，感じ方から，自分の工夫や捉え方，感じ方を深めている。
⑩音に没頭しながら，課題解決に向け，試行錯誤している。
⑪他者との音や言葉によるやりとりを通して，課題解決に向け，試行錯誤している。
⑫一つの解決策だけに満足せず，さらに他の解決策を探して試行錯誤を繰り返している。
⑬音楽の美しさや複雑さ，巧みさに気付き，感動することができる。
⑭自分を取り巻く音世界の，さまざまな音（含環境音）に対して，その意味や意義を考えて対峙しようとしている。
⑮自分を取り巻く音世界の，さまざまな音（含環境音）に対して，その意味や意義を考えて対峙し，自分なりに表出することができている。
⑯「授業で扱った楽曲の続き」や「授業で扱った作曲家の他の作品」を自分で鑑賞したり，表現したりしてみようという思いをもっている。
⑰「授業で扱った楽曲の続き」や「授業で扱った作曲家の他の作品」を友達や家族と一緒に，鑑賞したり，表現したりしてみようという思いをもっている。
⑱授業で扱った作曲家と「同時代の他の作曲家の作品」や「他の時代の作曲家の作品」を友達や家族と一緒に，鑑賞したり，表現したりしてみようという思いをもっている。
⑲音に向き合いながら，課題解決を図ろうとしている。
⑳他者との音や言葉によるやりとりを通して，課題解決を図ろうとしている。
㉑他者との音や言葉によるやりとりを通して，自分なりの課題解決策を見つけ，作品を完成させている。
㉒自分の音楽表現の創意工夫や，音楽の捉え方，感じ方を他者に音や言葉で伝えることができている。
㉓自分の音楽表現の創意工夫や，音楽の捉え方，感じ方を通して，日常生活での音・音楽環境のあり方やその課題に，関わろうとしている。
㉔自分の音楽表現の創意工夫や，音楽の捉え方，感じ方の深まりを自覚するとともに，日常生活での音・音楽環境のあり方やその課題への関わり方も深めようとしている。
㉕自分の（個々の）役割を互いに認識し，それぞれが責任を果たすことで作品を完成させることができるということを感じ取っている（理解できている）。
㉖自分の（個々の）役割を互いに認識し，それぞれが責任を果たすことで実際に作品を完成させることができている（完成に近付けることができている）。
㉗実際に完成した作品を通して，改めて，全体と個の関係性（階層性・包括性）に，目を配ることができている。

表２　自由記述問題３問

記述問題1 創造されたものを聴く／聴いた場面（＝鑑賞）や，創造する／した場面（＝創作や歌唱）で，あなたはどのようなことに気付きましたか。また，どのようなことを感じましたか。
記述問題2 創造する／創造した場面（＝創作や歌唱）の「その過程」で，あなたはどのようなことを心がけて取り組みましたか。
記述問題3 音楽の授業で学んだことを，授業外でどのように生かすことができましたか。また，音楽の授業で学んだことが授業外でどのように生きた（生きる）と感じていますか。

４　実践の概要

３　**研究計画**のとおり研究を進める予定であったが，新型コロナウイルス感染蔓延予防のため，今年度，音楽科の授業においては多くの制約を強いられた。４，５月の休校もそうだが，学校再開後も表現領域（歌唱，器楽，創作分野）において，声や音を出しての試行錯誤ができず，当初計画していた歌唱領域

を核とした実践は難しくなった。また，これらの影響から第１学年においては例年行ってきた学習を行うことができず，３年間の音楽科の学習を支える基礎的な知識・技能，考え方等が十分に定着していない状態で第１学年を対象に研究を進めることや，12 月に１回目の調査問題を実施することは難しいと判断した。そこで，第１学年については調査問題の実施を令和３年３月に延期し，来年度経年変化を見ることにした。また，研究の対象は，これまでの学びの蓄積がある第３学年とし，鑑賞領域を核とする題材構成に変更した。

これらを踏まえ，題材名「伝えたい，この思い～音楽がもつ力～」（第３学年）を９月～11 月に実施した（**表３**）。なお，第二次第２時を実践発表会として，オンラインで公開した。以下が，本題材の実施に向け，今年度の取り組みとして工夫した点である。

表３　「伝えたい，この思い～音楽がもつ力～」題材の指導計画（全 10 時間）

	時	学習内容	時数
第一次	1	楽曲から伝わる思い 「群青」～曲想を感じ取って音楽表現を工夫しよう～	2
	2	歌声集会に向けて～曲想を感じ取って音楽表現を工夫しよう～	2
第二次	1	楽曲に込められた思い～平和とは～ 「群青」から考える平和とは	1
	2	ジャズから考える平和とは	1
第三次	1	楽曲を通じて伝えたい思い～私たちと音楽～ 歌声集会に向けて～伝わる音楽表現～	2
	2	歌声集会に向けて～伝える音楽表現～	1
	3	歌声集会～私たちと音楽～	1

①　これまでの題材構成，指導を生かした取り組み～「生活や社会の中の音楽」という視点を高める～

本校音楽科では，例年第３学年において ER 沖縄に合わせて「戦争」や「平和」をテーマにした楽曲を扱ってきた。例えば，「ワルシャワの生き残り（A. シェーンベルク）」，「カンタータ「土の歌」（作詞　大木惇夫／作曲　佐藤　眞）」の鑑賞を通して音楽表現の創意工夫に込められた作曲家の思いを探る，「花の街（作詞　江間章子／作曲　團　伊玖磨）」の歌唱を通して作詞家や作曲家の思いを汲み取り，自分はどのように歌いたいか音楽表現の創意工夫をする等である。今年度はそれらに加え，「島唄（作詞・作曲　宮沢和史）」の編曲に着目した鑑賞を通して，それぞれのアレンジのよさや編曲者の思いや意図を探ったり，同じルーツをもつ楽器であるサンシェン，三線，三味線の音色の違いや音楽的な特徴の違いに着目した鑑賞をしたり，日本とイタリアの民謡を歌唱・鑑賞することを通して，同じ民謡であっても国の違いによって生み出される音楽表現の違い，音楽の多様性や固有性について考えさせたりした。これらの学習によって，生徒が生活や社会の中で音楽が生まれ，存在していることに気付くと共に，その視点が高められるよう工夫した。

②　音楽における「平和」とは何か

音楽における「平和」とは，多様な社会の多様な価値観を大切にすること，自分たちの意見（音楽）を自由に発信できること，自分たちの表現を追求することができることであると考える。ジャズの歴史はまさにプレイヤーたちの表現の追求の歴史である。そのような思いもあり，実践発表会でジャズを扱うことにした。また，「３年間の音楽の学びの集大成として，自分たちは歌声集会でどのような表現をするのか。」，「自分たちの表現とは？」を生徒に考えさせたかったため，今回のような題材構成にした。

③　ER（総合的な学習の時間）との関連

①でも述べたように，例年第３学年の前期に「戦争」や「平和」をテーマにした楽曲を扱うことで，生徒に平和について考えさせている。そして後期には，「ふるさと」や「祖国への思い」をテーマにした楽曲を扱うことで，私たちの生活や社会と音楽が結び付いていることについて考えさせている。

今回は，それに加えて「東日本大震災」を背景にもつ楽曲を扱ったり，ER キャリア（福島県浪江町ご出

身のシンガー・ソングライター　牛来美佳さんの講演会・ライブ）と関連付けたりすることで，「当事者の思い」や「歌手（表現者）としての思い」についても考えさせた。実践発表会当日には，黒人差別を歌ったジャズの楽曲「奇妙な果実」の鑑賞を通して，「様々な意味において『平和』とはどういうことなのか」についても考えさせた。

５　成果と今後の取り組み

調査問題の結果が**表４**（有効回答数は 164 名），生徒の記述問題を分析したルーブリックが**表５**である。

表４　調査問題の結果

学年合計	敬意＝自主自律								
	質問1	2	3	4	5	6	7	8	9
5	97	79	114	129	124	86	79	103	96
割合	59.1%	48.2%	69.5%	78.7%	75.6%	52.4%	48.2%	62.8%	58.5%
4	60	68	38	27	35	59	65	50	55
割合	36.6%	41.5%	23.2%	16.5%	21.3%	36.0%	39.6%	30.5%	33.5%
3	5	15	9	6	3	14	13	6	11
割合	3.0%	9.1%	5.5%	3.7%	1.8%	8.5%	7.9%	3.7%	6.7%
2	2	2	3	2	2	5	7	5	2
割合	1.2%	1.2%	1.8%	1.2%	1.2%	3.0%	4.3%	3.0%	1.2%
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
平均	4.54	4.37	4.60	4.73	4.71	4.38	4.32	4.53	4.49
5，4の割合合計	95.7%	89.6%	92.7%	95.1%	97.0%	88.4%	87.8%	93.3%	92.1%
1，2の割合合計	1.2%	1.2%	1.8%	1.2%	1.2%	3.0%	4.3%	3.0%	1.2%
標準偏差	0.618715	0.698643	0.677323	0.587743	0.560545	0.767324	0.794463	0.710752	0.676225
系全体としての平均値									4.52

学年合計	挑戦＝たくましく								
	10	11	12	13	14	15	16	17	18
5	69	75	58	102	52	30	85	59	51
割合	42.1%	45.7%	35.4%	62.2%	31.7%	18.3%	51.8%	36.0%	31.3%
4	59	70	62	42	52	64	40	42	43
割合	36.0%	42.7%	37.8%	25.6%	31.7%	39.0%	24.4%	25.6%	26.4%
3	27	15	28	13	47	50	20	27	33
割合	16.5%	9.1%	17.1%	7.9%	28.7%	30.5%	12.2%	16.5%	20.2%
2	9	4	16	6	13	19	15	24	25
割合	5.5%	2.4%	9.8%	3.7%	7.9%	11.6%	9.1%	14.6%	15.3%
1	0	0	0	1	0	1	4	12	11
割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.6%	2.4%	7.3%	6.7%
平均	4.15	4.32	3.99	4.45	3.87	3.63	4.14	3.68	3.60
5，4の割合合計	78.0%	88.4%	73.2%	87.8%	63.4%	57.3%	76.2%	61.6%	57.7%
1，2の割合合計	5.5%	2.4%	9.8%	4.3%	7.9%	12.2%	11.6%	22.0%	22.1%
標準偏差	0.885134	0.738787	0.956287	0.835966	0.950965	0.931531	1.098154	1.291417	1.265872
系全体としての平均値									3.98

学年合計	貢献＝豊かな心で											
	19	20	21	22	23	24	25	26	27	記述１	2	3
5	88	88	74	78	51	55	104	89	74	18	11	16
割合	53.7%	53.7%	45.1%	47.6%	31.1%	33.7%	63.4%	54.3%	45.1%	11.0%	6.7%	9.8%
4	62	62	73	58	67	69	46	53	69	65	112	108
割合	37.8%	37.8%	44.5%	35.4%	40.9%	42.3%	28.0%	32.3%	42.1%	39.6%	68.3%	65.9%
3	11	12	14	19	32	26	9	17	17	71	32	32
割合	6.7%	7.3%	8.5%	11.6%	19.5%	16.0%	5.5%	10.4%	10.4%	43.3%	19.5%	19.5%
2	3	2	2	8	13	13	4	4	3	8	5	4
割合	1.8%	1.2%	1.2%	4.9%	7.9%	8.0%	2.4%	2.4%	1.8%	4.9%	3.0%	2.4%
1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	2	4	4
割合	0.0%	0.0%	0.6%	0.6%	0.6%	0.6%	0.6%	0.6%	0.6%	1.2%	2.4%	2.4%
平均	4.43	4.44	4.32	4.24	3.94	4.02	4.51	4.37	4.29	3.54	3.74	3.78
5，4の割合合計	91.5%	91.5%	89.6%	82.9%	72.0%	76.1%	91.5%	86.6%	87.2%	50.6%	75.0%	75.6%
1，2の割合合計	1.8%	1.2%	1.8%	5.5%	8.5%	8.6%	3.0%	3.0%	2.4%	6.1%	5.5%	4.9%
標準偏差	0.699574	0.682491	0.731987	0.884294	0.935057	0.930513	0.760999	0.81267	0.772828	0.799013	0.731377	0.74938
系全体としての平均値									4.29			

表５　生徒の記述問題を分析したルーブリック

①創造されたものを聴く／聴いた場面（＝鑑賞）や，創造する／した場面（＝創作や歌唱）で，あなたはどのようなことに気付きましたか。また，どのようなことを感じましたか。具体的に書きましょう。	
1	・～と思った，気付いた。
2	・（２つ以上）気付いた。
3	・意見の中に比較の観点が入っている。 ・理論に裏付けられた考えである。（ただし，どちらか一方のみ。）
4	・理論に裏付けられた考えであり，比較の観点が入っている。 ・理論に裏付けられた考えであり，さらに新しいことへと視野が広がっている。（比較の視点はない。）
5	・理論に裏付けられた比較を通して，さらに新しいことへと視点が広がっている。
②創造する／した場面（＝創作や歌唱）の「その過程」で，あなたはどのようなことを心がけて取り組みましたか。具体的に書きましょう。	
1	・～した。（内容が漠然としており，試行錯誤はない。）
2	・具体はあるが一通りで試行錯誤はない。
3	・（弱めの）試行錯誤をして作品を完成させている。 ・気付いたことや学んだことを生かして作品を完成させている。（試行錯誤はない。）
4	・気付いたことや学んだことを生かして，試行錯誤して作品を完成させている。 ・気付いたことや学んだことを生かして作品を完成させており，新しいことへと視野が広がっている。
5	・気付いたことや学んだことを生かして，最初の作品から試行錯誤して作品を改良し，さらに新しいことへと視点が広がっている。
③音楽の授業で学んだことを授業外でどのように生かすことができましたか。また，音楽の授業で学んだことが授業外でどのように生きた（生きる）と感じていますか。具体的に書きましょう。	
1	・～と思う。（内容が漠然としている。）
2	・（２つ以上）…と思う。 ・授業で学んだ内容そのものが別の場面で生かされている。
3	・授業で学んだ内容そのものが別場面で生かされており，身近な問題と関連付けて（生活や社会と結び付けて）考えることができている。 ・授業で学んだことを少し発展させて，実行を伴っている。
4	・授業で学んだことを少し発展させて，身近な問題と関連付けて（生活や社会などと結び付けて）考えることができている。 ・授業で学んだことを，比較を伴いながら身近な問題と関連付けて考えることができている。
5	・授業で学んだことを，比較を伴いながら身近な問題と関連付けて考え，さらにその次の行動に移している。 ・授業で学んだことを，比較を伴いながら身近な問題と関連付けて考え，さらに音楽そのものを離れた別の領域，ジャンルへとその学びや考え方をつなげている。

以下，検証結果を考慮しつつ，指導及び授業実践を振り返り，成果と課題を考察する。

音楽科版質問項目 27 問については，敬意系の平均値が一番高く，系全体としての平均値が 4.52，次に貢献系で 4.29，挑戦系は 3.98 で，敬意系（4.52）＞貢献系（4.29）＞挑戦系（3.98）であったが，自由記述問題の平均値は，貢献系（3.78）＞挑戦系（3.74）＞敬意系（3.54）であった。ただし，質問項目に関しては，敬意系がその他２つと比較した際，数値に有意差が見られたが，自由記述問題に関しては，３つとも同じような数値で有意差はなかった（詳細は，**表４**を参照）。なお，質問項目と自由記述問題では，似たような傾向が見られたもの，敬意系の評価については若干異なる結果になった。これは，生徒の自由記述問題１の評価において，「理論に裏付けられた考えであるが，比較の視点が入っていない」又は，「比較の視点は入っているが，理論に裏付けられた考えは入っていない」生徒が一定数おり，４ではなく３の評価になったためである。

以下，質問項目の上位項目，下位項目について見ていく。質問項目において数値が高かった上位５項目は，次のとおりである。

④　多様な音楽表現の創意工夫や，音楽の捉え方，感じ方があることを理解している。(4.73)

⑤　他者（主として友達）の多様な音楽表現の創意工夫や，音楽の捉え方，感じ方を尊重し，受け入れている。(4.71)

③　音や音楽に触れることが自分のものの見方や考え方を広げることにつながることを理解している。(4.60)

①　新しく出会った音や音楽に興味・関心をもち，意欲的に学習活動に取り組んでいる。(4.54)

⑧　他者（主として作曲家）の多様な音楽表現の創意工夫や，音楽の捉え方，感じ方を理解し，受け入れている。(4.53)

これらは全て敬意系の項目であり，他の貢献系，挑戦系の数値よりもやや有意に高い数値を示していることから，概ね生徒は学びに関わる様々なもの・ことを尊重すると共に，学び合う他者に共感しながら，違いも含めて尊重することができていると言える。また，新しい知識や異なった見識を拒むことなく謙虚に学ぼうとしているとも言える。逆に数値が低くなった下位５項目は，次のとおりである。

⑱　授業で扱った作曲家と「同時代の他の作曲家の作品」や「他の時代の作曲家の作品」を友達や家族と一緒に，鑑賞したり，表現したりしてみようという思いをもっている。(3.60)

⑮　自分を取り巻く音世界の，さまざまな音（含環境音）に対して，その意味や意義を考えて対峙し，自分なりに表出することができている。(3.63)

⑰　「授業で扱った楽曲の続き」や「授業で扱った作曲家の他の作品」を友達や家族と一緒に，鑑賞したり，表現したりしてみようという思いをもっている。(3.68)

⑭　自分を取り巻く音世界の，さまざまな音（含環境音）に対して，その意味や意義を考えて対峙しようとしている。(3.87)

㉓　自分の音楽表現の創意工夫や，音楽の捉え方，感じ方を通して，日常生活での音・音楽環境のあり方やその課題に，関わろうとしている。(3.94)

㉓以外は，全て挑戦系の項目である。しかし，下位５項目に関しては，生徒ごとの数値のばらつきが大きく，どの質問に対しても５又は４と回答している生徒が一定数いた。また，自由記述問題に関して言えば，挑戦系と関連付く問題２の平均値は 3.74 で，敬意系（問題１），貢献系（問題３）と比較しても同じような数値で有意差はなかった。記述内容も，「コードに合うように創作をした時に，あえてぶつかる音を入れてみると切なさが生まれることをこの時に知れた。逆に音がはまりすぎていると，あまり楽しくない音になり，人間の複雑なところが出ないと思った。」，「創造することは，自分の思いを音に投影させるということで，音選びが重要になってくる。決められたパターン（音楽的な特徴）を取り入れた作曲も興味をそそられたが，～～のテーマに沿って自由につくる授業は個人的に難しかったが面白かった。ただ音を選ぶだけでなく，どの音階を使うかや音の並びがスムーズになるよう心がけた。」など，気付いたことを生かしてさらに新しいことへと視野が広がっていたり，音楽の根本について考えていたり

する生徒もいた。以上のことから，生徒は学んできた内容を多面的な視点を用いてさらに探求を深めたり，実生活や社会の中で活用したりすることは，ある程度できていると言える。しかし，総合的に見て，他の敬意系，貢献系と比較すると弱いところがあるのは事実である。今年度，新型コロナウイルス感染・蔓延予防のため，音や声を出しながら試行錯誤する場面や，他者に自分の作品を音として聴いてもらい，フィードバックをもらう場面がほとんどなかったことも影響していると思われるが，いかに生徒が試したり，より多くの情報から吟味したりできるか，それをどのように授業内・授業外に位置付けていくかは検討していきたい。

また，今回，見えた課題として，「質問項目の設定の仕方」がある。例えば，質問⑱や⑰は，「学んできた内容をさらに新しい内容や取り組みへと更新できているか」を見取るための質問であるが，そもそもこの質問が適当なのかという問題もある。生徒の力を適正に見取るために，質問項目についても今後検討していきたい。

なお，調査問題の結果にも表れているが，今年度 ER との関連，本校が育成を目指す資質・能力との関連を意識した題材構成にしたことで，今回研究で本校音楽科が目指している生徒像により近付けることができたと感じている。今後もこれまでの音楽科の指導法，題材構成の工夫を生かしつつ，ER だけでなく他教科との関連を，内容面のみならず，資質・能力面においても意識しながら取り組んでいきたい。

引用文献

1) 大串健吾・桑野園子・難波精一郎監修，小川容子他編集『音楽知覚認知ハンドブックー音楽の不思議の解明に挑む科学ー』(2020) 北大路書房「第５章　音楽学習と教育」pp. 117-139

参考文献

1) 文部科学省(2017)『中学校学習指導要領解説音楽編』
2) 国立教育政策研究所(2016)『国研ライブラリー　資質・能力［理論編］』
3) 奈須正裕(2017)『「資質・能力」と学びのメカニズム』
4) 高木展郎　編著(2016)『これからの時代に求められる資質・能力の育成とは』
5) 岡山大学教育学部附属中学校(2019)『研究紀要第 55 号』，pp. 67－74